

東洋産業だよりのバックナンバーは、ホームページでご覧いただけます。

□ トピック □ 侵略的外来種「ヒメアカカツオブシムシ」

IUCN(国際自然保護連合)が選定・公表した世界の侵略的外来種ワースト100の中に、唯一貯蔵穀物害虫としてエントリーされている害虫にヒメアカカツオブシムシという種がいて脚光を浴びています。ヒメアカカツオブシムシは日本においてわずかに侵入が確認されたのは数回、しかもすでに根絶宣言もなされています。

しかし、中国への輸出米に関して、中国側から厳しい注文を受けており、「輸出米の倉庫におけるモニタリング調査、輸出後に関しても100%の0管理」を求められています。貯蔵穀物害虫は100%の駆除が困難であり、場合によっては自国の農業が壊滅的な被害を受ける事例もあることから現在分布していないとされる中国側の警戒も一理あります。

日本側としても、自国の食の安全などの信用問題もあり、全面的に協力していくことになっていますが、ひとたび発生が確認されると取り返しがつきません。特に輸入穀物などを扱われている所では今後、かなり警戒が必要な虫といえるでしょう。



ヒメアカカツオブシムシ

●加害物:乾燥した植物質のほか、ペットフードやゴムなども加害する。

●分布:日本未分布

※写真引用元:農林水産省HP 日本産精米の中国向け輸出条件についての資料

□ お知らせ □ 新発売！ヒメアカカツオブシムシ用フェロモントラップ



フェロモントラップ
【トリオス】

- 使用できる誘引剤
- ・コクヌストモドキ用
- ・ヒラタコクヌストモドキ用
- ・コナナガシクイ用
- ・ノコギリヒラタムシ用
- ・ヒメアカカツオブシムシ用*

このたびヒメアカカツオブシムシを含む3種の国産モニタリング用フェロモントラップが発売されました。ヒメアカカツオブシムシには飛翔能力がなく、ライトトラップなどの誘引捕殺やモニタリングを行うためのツールに限られることから、オス成虫のみを強く誘引する性フェロモンを利用しているこのトラップは、モニタリングを行うためには非常に強力なツールとなります。中国向けの輸出米に対してはすでに義務付けられている調査においては必須のアイテムですが、植物防疫上これらの侵入害虫に関してはさらに目を光らせていく必要があります。

日本は過去沖縄県でミカンコミバエ、ウリミバエという重要害虫の根絶に成功しましたが、これらの害虫が確認されていると、製品の輸出入はおろか、国内移動まで制限される可能性があります。現在はいないとされている害虫でも、いないと証明する方法はこのトラップを用いた調査が主体になりますので、自衛のためにもぜひご採用いただきたい商品の一つです。ご興味がありましたら是非一度お問い合わせください。

□ 豆知識 □ 花に集まる繊維害虫「ヒメマルカツオブシムシ」

上記のカツオブシムシ類とは別種に、昔から日本に分布しているカツオブシムシの仲間にヒメマルカツオブシムシという種があります。この害虫はいわゆる服の虫食いの原因としても有名で、ウールやカシミアなどの動物毛でできたものが大好きで、化学繊維であっても人間の汗や脂がついているものは穴をあけてしまいます。カツオブシムシの仲間は名前の通り「経節」のような動物性タンパクを好みますので、こういったものが好きなのでしょう。また、これらの仲間は乾燥や飢餓に対する耐性が高く、ほとんど食べ物がなくても半年くらいは平気で生きているものもあり、人間のフケや毛髪なども好物です。

さて、花に集まるという性質ですが、この虫は不思議なことに、その多くが家の中などの屋内で生息しているにもかかわらず、成虫になって産卵をひと段落させるとマーガレットなどの白いキク科の植物に集まります。花粉を摂食しているようですが、一度安定した環境の屋内から外敵も多い外へわざわざ危険を冒して出ても、産卵数はずいぶん落ちていくようですし、なかなか次の産卵場にたどり着ける可能性は低そうです。ひよっとすると大仕事である羽化から産卵を終えて、残りの余生を楽しんでいるのでしょうか？不思議ですね。



ヒメマルカツオブシムシ

●加害物:乾燥した動物質の他、穀粒などの植物質も加害する。

●成虫の出現時期:成虫は春期(4~5月)に発生し、マーガレットなどの花に群がる。

●分布:日本各地



総合衛生コンサルタント・生物害防除

東洋産業株式会社

URL: <http://www.to-yo-s.co.jp>

本社: 岡山県岡山市北区新屋敷町3-19-20

TEL(086)241-8080 FAX(086)241-8094

拠点: 大阪, 姫路, 岡山, 倉敷, 福山, 広島, 高松, 松山
関東(市川)